

殺処分を防ぐために。奄美大島に『あまみのさくらねご病院』がオープン

保険



ト保険



リー -

at -猫-

ニュース



ノネコの殺処分を防ぐために。奄美大島に『あまみのさくらねご病院』がオープン

[あまみのさくらねご病院](#) [奄美大島](#)

ツイート

いいね! 688

ノネコの殺処分を防ぐために。奄美大島に『あまみのさくらねご病院』がオープン

美大島では2018年7月17日から、ノネコがアマミノクロウサギなどの希少動物を捕食しているという理由で、環境省と地元行政が「ノネコ管理計画」に基づいてノネコの捕獲を始めました。しかし、この計画には疑問を抱く点が多くあります。



まず、生息しているノネコの頭数は600頭から1000頭であるのに、この計画によるノネコの駆除数は1年間に約300頭、10年で3000頭。環境省によれば、「人の生活圏に棲む1万頭といわれるノラ猫が森に入ってノネコになり、繁殖し、増加するその合計が10年で3000頭」と回答していますが、どれだけノネコの殺処分を行っても、発生源である1万頭のノラ猫の不妊手術（TNR）を行わなければ、同じことが繰り返される可能性があります。





TNR不妊手術前の子猫たち

また、同計画により捕獲されたノネコは1週間以内に譲渡先が決まらなければ、すべて殺処分されてしまうというのも、期限が短いように思えてなりません。
 (※譲渡希望者は「納税証明書、所得証明書、家の見取り図、身分証明書等の提出が義務付けられています。)

そんな状況を見かねて立ち上がったのが、全国で猫や犬の殺処分ゼロを目指し、これまでに約70000頭の無料不妊手術を行った公益財団法人「どうぶつ基金」。どうぶつ基金は8月15日、奄美大島に、殺処分ゼロを目指した無料不妊手術病院「あまみのさくらねこ病院」をオープンさせました。

ボランティア募集
 病院受付、ノラ猫運搬、お掃除、獣医助手

奄美大島の自然を守るために、ねこの不妊手術を無料で
 行うボランティア病院の仲間を募集します。

TNR とは? → Trap → Neuter → Return
 捕獲して 不妊手術をしてサクラ耳カット 元の場所に戻す

8月15日OPEN

猫の不妊手術 **無料**

お問い合わせ
 TEL 0797-57-1215
goo.gl/6We4SE

公益財団法人 どうぶつ基金
あまみねさくらねこ病院

こちらの病院では、ノネコの発生源と言われるノラ猫1万頭すべてに無料で不妊手術、ワクチン、ノミ駆除が行われ、ノネコの発生源を断ち、捕獲、殺処分ゼロを目指します。

そこで今回は、実際にどうぶつ基金に取材を行い、詳しい取り組み内容などを伺

いました。

――本プロジェクトはいつ頃から計画されていたのでしょうか。

奄美大島の一斉TNR自体は『徳之島ごとさくらねこTNR』（2014年）を始めた段階から考えていました。徳之島で初めての出張手術が新聞報道されて、すぐに奄美大島の方から、徳之島のように出張手術をしてほしいというご相談があったので、将来的には奄美でも徳之島と同じように、島ごとの一斉TNRをやりたいと考えていました。

そんなとき、奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画（案）が、今年の2月に発表され、議案になったのを見て、その後5市町村の一年間のTNR数の合計が1万頭のノラ猫に対してわずか790頭と知りました。これでは少なすぎて、ノネコを減少させるには及ばないと考え、猫の殺処分減少のお役に立てばと思い、無料不妊手術病院をつくることを決意しました。

そして、獣医師の確保や場所の決定など、様々な準備が整った7月、緊急に今回の病院設立を発表しました。

<参考> [徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクト事業報告書](#)

――プロジェクトチームの山口様、足立様、斉藤さまは、主にどのようなご活躍をされてきた方々なのでしょうか。

まず、院長を務める山口武雄獣医師は、どうぶつ基金の前会長で現顧問です。山口獣医科病院開業から現在まで、行政による犬猫の殺処分ゼロ実現のため無料またはボランティア価格にて、毎年数千頭の犬猫の不妊手術を行ってきました。ブータン国における犬のTNR活動支援に対して、ブータン国王妃主催の感謝式典に主賓として招待されたり、動物愛護管理功労者として環境大臣から表彰もされたりもしております。

そして、プロジェクトリーダーの足立萌美獣医師は平成2年生まれの若い先生ですが、手術のエキスパートです。外科だけでなく、内科の勉強も積極的にされています。動物愛護においても、獣医師としての立場から役に立ちたいと考えておられ、積極的に海外でのボランティア活動も行う、熱い志を持っている先生です。

また、ボランティア獣医リーダーの斉藤明子獣医師はNPO法人ゴールゼロの代表であり、

東京都中野区にある「moco動物病院」では院長を務めています。ノネコ管理計画に基づいて捕獲されたノネコ引き取り及び里親探しや奄美大島で飼い主を募集中の保護猫の里親探しに協力しているの「奄美の猫引越し応援団リーダー」として、すでに奄美大島から十数頭の猫を引き出しています。

さらに、「Change.org」での「世界遺産を口実に、奄美や沖縄の猫を安易に殺処分しないでください！」の呼びかけ人代表でもあります。

――プロジェクトを立ち上げる際、どんなことが大変でしたか。

離島なので台風が来ると船が止まり、船便の荷物が10日ぐらい遅れることと、エアコンの工事が遅れて、40度を超える室内での準備が辛かったです。

でも、島の方が親切で、猫好きの方も多かったので救われました。無料の病院を設立する計画を話すと「奄美の自然と猫のためにありがとう」という言葉をたくさんいただき、暑さも吹っ飛びました。

――今年度では、具体的にどれくらいの数のノラ猫のTNRを目標とされているのでしょうか。



ノラ猫の数は5,000~10,000頭と行政が発表しているので、できればそのすべてにTNRを行いたいと考えています。「あまみのさくらねこ病院」は1年で1万頭以上の手術が可能な施設ですが、手術をするには捕獲が必要です。猫が来なければ手術はできません。捕獲は地元の市民やボランティアさんが行う事になるので、そこにかかっています。

また、今後は徳之島モデルのように地元行政の協力にも期待しています。実際に徳之島では、捕獲とリターン、会場設営、会場提供を行政が行いました。

TNRはTとRが不可欠なので、地元が猫やアマミノクロウサギを守るために、どれだけ本気になってくれるかにもかかっています。

――ノネコの発生源となるノラ猫を増やさないために、専門家以外の私たちができることとはどんなことなのでしょう。

不妊手術をすることです。ノラ猫は不妊手術後、エサをちゃんと与え管理すべきだと考えています。エサやりを禁止にすると、飢餓状態になった猫が森に入り、それがノネコと呼ばれて駆除されるのです。

5市町村で条例化されている「みだりなエサやり禁止」は、不妊手術済みの猫へのエサやりを認める内容だとは思いますが（※行政に確かめたわけではありません）のですが、住民は「ノラ猫へのエサやりは一切禁止」と解釈しています。

不妊手術を行っていれば、猫は増えませんし、エサを与えれば山に獲物を求めていくことも少なくなります。ですから、行政には、住民が不妊手術済みのノラ猫のエサやりと世話（TNRM）を行ってもそれは「みだりなエサやり」ではないというアトを、正確に説明してほしいとも思っています。

ボランティアとして、実際に現場に立ち回りたいと考えています。

――ボランティアへの申し込みは、現在の時点でどれくらい集まっているのでしょうか。

以前からどうぶつ基金に登録いただいているボランティア登録獣医（出張手術参加希望獣医）やその他のボランティアは各数十名ずついます。そして、今回申し出てくれた奄美大島在住のボランティアさんも10名ほどにいます。なお、現在でも奄美在住の方から毎日、多数の問い合わせをいただいている状況です。

――ボランティアとして申し込むと、どのような手助けができるのでしょうか。

捕獲や病院のお手伝い、事務、広報など、それぞれの特技を活かしたお手伝いをしていただければ助かります。

――もし、野良猫1万頭のTNRを遂げたら、その後「あまみのさくらねこ病院」はどんな病院として機能していこうと考えておられるのでしょうか。

まずは1年間運営をして検証し、病院継続の有無も含めて、その後のあり方を考えていきます。先ず、精一杯頑張りたいです。

――その他、なにか伝えたいことなどありますか。

奄美の人はもう一度、冷静に考えてほしいです。世界には希少種の絶滅を防ぐためにノネコの駆除が必要な場所もあるかもしれませんが、この10年間ほとんどノネコ対策無しでアマミノクロウサギの数が増えている奄美については、「本当に緊急のノネコ駆除、殺処分が必要なのか」をもう一度よく考え直してほしいです。

人も猫もアマミノクロウサギも同じ大切なひとつの命です。当然ですが一度、殺してしまうと命は戻りません。

なお、「あまみのさくらねこ動物病」では1万頭の野良猫の他にも、飼い主不明の野良猫や多頭飼育崩壊などの理由がある飼い猫、保護猫にも無料で不妊手術や3種混合ワクチン、ノミ駆除薬を行う予定だそう。ノラ猫だけでなく、多くのノネコやアマミノクロウサギを救うことにも繋がる今回の取り組みは、きっと行政にも大きな刺激を与えるでしょう。



プロジェクトリーダー
足立 萌美



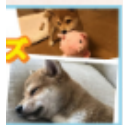
院長
山口 武雄



ボランティア獣医リーダー
齋藤 朋子

文／古川 諭香

アップへ



管理栄養士の
ごしん

